

2024. 04. 01

新法人「微生物制御技術機構」設立、社会課題の解決に貢献

2024年4月、東京都 - 微生物制御技術の新たな境地を切り開く「一般社団法人微生物制御技術機構」が、産業界における安全性の確保と品質向上を目的に設立されました。九州産業大学の中山素一教授を代表理事に迎え、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献するとともに、微生物制御技術の拡充と革新を通じて公衆衛生の向上を図ります。

新法人は、MALDI-TOF MS（マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析計）を基盤とした微生物同定技術の開発に注力。本技術により微生物内のタンパク質質量を高速で精密に測定し、効果的な微生物制御に必要なデータを提供します。中山教授は「危害微生物および製品劣化原因微生物の同定は産業界における微生物制御の第一歩であり、当機構はこの技術の実用性検証と普及に努めます」とコメントしています。

また、産業界との連携を深め、人材育成にも力を入れる計画です。セミナーや勉強会の開催を通じて、知識の共有と次世代の専門家育成を目指します。

【代表理事コメント要約】

微生物制御技術は社会の課題解決に不可欠であり、特に微生物同定は産業界での微生物制御支援の出発点です。当機構は、微生物同定技術の実用性検証と普及、情報発信、人材育成を推進します。皆様の参加と支援をお願いいたします。

【MALDI-TOF MS（マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析計）とは】

レーザー照射によりイオン化された物質の質量を測定する技術です。イオン化された物質は電場内で加速され、その後の飛行時間を計測することで質量を割り出します。加速されたイオンが飛行する距離は一定で、時間はイオン化された物質の質量に依存します。この技術により、非常に迅速かつ正確に微生物種および菌株に特異的なタンパク質などの質量を測定でき、食品安全や生化学研究分野での応用が期待されています。

一般社団法人微生物制御技術機構

【問合せ先】

ホームページ：<https://www.microbialcontrol.org/>

メールアドレス：support@microbialcontrol.org